

1. 東京外国語大学端艇部資料解題

2012年(平成24)度、東京外国語大学文書館(以下、文書館と表記)は、東京外語艇友会(本学端艇部OB会。以下、「艇友会」と表記)より、「東京外国語大学端艇部資料群」(以下、「資料群」と表記)の寄贈を受けた。以下、この資料群の来歴と概要及び、寄贈の経緯、資料整理の経過を報告したい。

1. 端艇部資料群の来歴と概要

艇友会では1977年(昭和52)に『外語ボート70年史』を、2001年(平成13)に『外語ボート100年』を刊行した¹。今回寄贈の対象となった資料群の大部分は、この年史編纂に際して関係者より収集された資料群であり、資料群の全体像は、図1の通りである。

【図1】現状記録調査現況

No.	容器	資料概要	目録番号
1	A	『コンコルディア』(昭和6年～平成22年)、昭和六年東京外語艇友会会報、写真(大正・昭和初期)、賞状、学内競漕大会プログラム	1～19-9(止)
2	B	四大学・五大学(大学対抗)レガッタプログラム、『外語ボート史70年史』、昭和初期練習日誌	1～40(止)
3	C	ボート関連書籍	1～18(止)
4	D	ボート関連書籍	1～20-1(止)
5	E	他大学ボート部年史	1～18-1(止)
6	F	他大学ボート部年史、オリンピック関連資料、海外ボート雑誌、	1～74-10(止)
7	G	ボート関連新聞記事、ボート関連書籍(大正・昭和初期)、『漕艇』(昭和初期)、国民体育大会関連資料(昭和15・16年)、各種競漕大会プログラム(昭和10年代)	1-0～65-7(止)
8	H	ボート部関連新聞記事・書簡(昭和11～31年)、ボート部関連新聞記事(昭和38～59年)	1-0～15-1(止)
9	I	ボート部関連新聞記事(昭和63～平成3年)、新聞記事・写真(昭和10年代)	1-0～15(止)
10	J	ボート部関連新聞記事(昭和53～63年)	1-0～15(止)
11	K	日本漕艇協会ファイル、ボート関連新聞記事(1980年代)、ボート部新聞海賊版	1-0～23(止)
12	L	ボート部関連写真(1990年代)	1～12(止)
13	M	『外語ボート100年』未使用写真、『外語ボート100年』編纂用アンケート原本	1～8-54(止)
14	N	ボート部関連写真(昭和20年代)、米田庸雄氏アルバム(1936～)、松井(寺井)文尾氏アルバム(1928～1929年、1929～1931)	1-0～9(止)
15	ロッカー5	トロフィー、メダル、楫(昭和44～平成23年)	1～39(止)
16	その他	額(写真)、しゃもじ	1～3(止)
17	コンテナ1	賞状(昭和42～平成22年)	1～85(止)
18	コンテナ2	ボート部関連写真(1990～2000年代)	1-0～21-6(止)
19	コンテナ3	ボート部関連写真(1980～2000年代)	1-0～27-11-3(止)
20	コンテナ4	松井文尾氏アルバム昭和17・18年	1-0～1-3(止)
21	コンテナ5	ボート部関連写真、記念塔祭関連写真(松井氏整理)、外語祭関連写真	1-0～52(止)
22	コンテナ6	汚染写真(年代不詳)、外語ボート部100年史編纂用写真	1-0～11-1(止)
23	コンテナ7	ボート大会8ミリフィルム(昭和32～55年)、機材	1～19-24-1(止)

注1) A19-0～19-9は2012年10月に追加寄贈を受けた資料群である。

注2) Nの箱は2013年1月30日に追加寄贈を受けた資料群である。

(1)資料群の来歴

資料群は2012年7月18日の初期調査の時点で戸田合宿所1階の廊下兼物置のスペースに保管されていた。しかし、

¹ 艇友会では、『外語ボート111年』(デジタル版)を刊行した。

初期調査の際の聞き取り調査²によると、この場所に至るまでの間に数度、保管場所を移動してきたという。『外語ボート70年史』の編纂後、資料群は戸田合宿所(1976年鉄筋コンクリート2階建完成)2階に設けられた資料室に保管され、1990年代から開始した百年史の編纂に際しても同室に保管されていた。2001年以降部員数の増加に伴い、合宿所の増改築が実施された際、一時的に資料群は艇庫の隅に移され、増改築後に2階の監督室(資料室)に移管された。その後、2011年、再び部員数の増加に伴う居住スペース拡充のため、監督室から資料を移管する必要があり、そこで移管された場所が合宿所1階の廊下兼物置のスペースであった。(保管場所の状況については「2. 寄贈の経緯と資料整理の経過」を参照されたい)

また保管場所がボート競技の合宿所のため水辺に位置し湿度等の点で保存に適さない環境であったことから、多くの資料にはカビが蔓延した。そのため、今回の調査以前の2011年に、100年史の編纂担当者であった艇友会の広谷直路氏が、既に判読が困難な資料について廃棄処分を講じたという。今回、寄贈を受けた資料群は、そうした選別・廃棄を経た資料群である。

(2) 端艇部の略史

繰り返しになるが資料群は、端艇部の年史編纂を目的に収集された資料群である。そこで、資料群の概要理解を助けるため、まず端艇部の略史を紹介したい。

端艇部は、東京外国語学校が東京高等商業学校から独立した翌年1900年(明治33)に設立された本学でも最古参の部活の一つである。

端艇部が独立からわずか1年後に設立された背景には、ボート競技と本学の独立以前からの歴史的つながりがあった。1873年(明治6)に来日したフレデリック・ウィリアム・ストレンジは東京外国語学校(1873-1885年)の英語講師として教鞭をとる傍ら、学生にボート競技を教えた。これが、日本の学生ボート競技の起源である。東京外国語学校英語科が東京英語学校として分離すると、彼もまた転任することになるが、彼の伝えたボート競技は本学の学生に普及してゆく。その後1885年、本学は統合により一時廃校となったが、ボート競技は統合された東京商業学校に受け継がれ、本学が1897年東京高等商業学校(東京商業学校が改称)に附属外国語学校として創立、1899年に独立する中で再興し、ここに端艇部は設立された。

端艇部設立の2年後の1902年、第1回校内レース大会が開催されている。これが今日まで学内競漕大会として実施されている「ボート大会」の起源である。当初は東洋組(清・韓)と西洋組(英・仏・独・露・西・伊)に分かれ競われたが、その後「Foreign Languages School」の頭文字をとり、F組(英・仏・独)、L組(露・西・伊)、S組(清・韓)の三組対抗のレースに改められた。明治期、学校対抗のレースはほとんど行われていなかったことから、校内レースの充実が図られ、各組では江戸川を遠漕する2泊3日のボート合宿なども執り行われ、ボートは学内の重要な年中行事の一つとして発展してゆく。

他方、大正期より学校対抗のレースも整備されてゆく。1919年(大正8)、インターカレッジ選手権開催を提唱する東京帝国大学主催の招待レースが開催され、東京外国語学校は東京高等工業学校の対校戦を行った。翌年、東京帝国大学により、漕艇統轄団体の組織化、選手権競漕大会の開催などが各校に提唱されると、各校はこれに応じ、日本漕艇協会が設立された。この協会設立校の7校の一つに本学はその名を連ね、日本漕艇協会はその後「関東大学専門学校選手権大会」(インターカレッジ)を開催してゆく。

昭和期に入ると、選手権大会に臨む端艇部の強化支援を行うため、1931年(昭和6)、従来、端艇部を支援してきた後援部の機能を強化し、「東京外国語学校艇友会」(以下、艇友会)が発足する。艇友会は「東京外国語学校艇友会會則」第2条において「本會ハ會員相互ノ親睦ヲ敦クシ且ツ漕艇ヲ通ジテ運動精神ノ滋養助長ヲ圖リ以テ東京外国語学校端艇部ノ健全ナル發達ニ資スルヲ以テ目的トス」を掲げ、端艇部の支援に当たった。同年4月1日、艇友会は会報第一号『東京外語艇友會々報』を発行する。『東京外語艇友會々報』は、翌年、紙面を刷新し『コンコルディア』として、

² 2012年7月18日初期調査の中で、艇友会の広谷直路氏(ボート部70周年史、100年史の編纂担当者。昭和41年ドイツ語科卒)、館次郎氏(艇友会副会長(当時)。昭和44年スペイン語科卒)に、倉方慶明(館員)が聞き取り調査を行った。

今日に至るまで、端艇部の近況を紹介する会報として継続的に発行されている。なお、コンコルディアの名称は1921年(大正10)に完成したエイト(8人の漕手と1人の舵手が乗る種目)の新艇に由来する。この名称は艇友会の初代会長であり、東京外国語学校教授であった田代光雄教授が名付けた。また、この前年、墨田川の向島艇庫の2階に合宿所が完成している。

昭和初期においては部員不足による低迷も見られたが、1938年(昭和13)には舵手付きペアの種目で、全日本選手権競漕で全国制覇を果たした。しかし、戦争の時代に傾くにつれ、ボート競技にも厳しい時代が訪れる。1940年、端艇部の母体でもある校友会が、東京外国語学校報國團へ改編され、これと同時に端艇部は報國團鍛錬部端艇班となった。そして、1943年5月のインターカレッジを最後にレースは休止してしまう。そして同年、多数の学生が「学徒出陣」により、戦地に赴くこととなった。

他方、艇友会では戦争の時代にあっても、会員の相互連携を図ることを目指した。会報『コンコルディア』は37号をもって一時停刊となったが、ガリ版刷りの『小さなコンコルディア』が1944年2月29日から1946年9月まで、号外を含め全7号が発刊され、戦地に散らばった会員との通信が図られた。

敗戦直後の1945年10月、日本漕艇協会はボート競技の復興に向け活動を再開した。同年11月10日、「ボートレース復活祭」と銘打ちレースが開催された。これに本学の端艇部は出漕し、翌年の「復活第一回」インターカレッジでは種目固定席艇で、1948年の全日本選手権では種目フォアで優勝を果たした。また、1947年3月には艇友会の活動も本格的に再開する。従来、艇友会は校内組織として活動をしてきたが、戦後の混乱により学校当局からの支援が得られぬ状況に鑑み、艇友会は校外OBを中心とした組織に再編整備された。同年8月、艇友会は復活第1号のガリ版刷り『コンコルディア』を発行する。(『コンコルディア』は1955年43号から活版印刷になる。)

1949年、東京外事専門学校(1944年に東京外国語学校が改称)は新制の4年制大学、東京外国語大学へと改組された。1951年には1943年第41回より中断していた校内レースが学内レースとして復活した。6月24日に開催されたレースは、参加学生100名、レース数15であり、新制大学になり出現した女子学生も参加した。

対外的には戦後、1957年東京工業大学との工大戦が復活すると、翌年には東京商船大学を加えた三大学レガッタ(別名TFMレガッタ。Tは東工大、Fは外語大、Mは商船大を意味。)が開催される。この大会は後年(1966年)に東京教育大学と防衛大学校の2校を加え、五大学レガッタ(競漕大会)として発展し、今日まで続いている。

また1960年、端艇部に女子部が発足した。本学の学生数全体に占める女子学生比率は、1970年代に急速に高まり、1983年には男女比が逆転するまでに至るが、端艇部においても女子学生の増加が戦後60年間の一つの特徴であった。端艇部女子部は1963-64年に関東女子インカレで優勝するなど活躍が見られた。

そして、端艇部では五大学レガッタ、全日本選手権をはじめ、右表にみられる戦績を収め、今日に至っている。

【図2】戦後の端艇部の主な戦績

戦後の主な戦績	
1946年	インターカレッジ 固定席艇 優勝
1948年	全日本選手権 舵手付フォア 優勝
1953年	全日本選手権 舵手付フォア 優勝
1959年	全日本選手権 舵手付フォア 優勝
	全日本選手権 舵手無フォア 優勝
	三大学エイト 優勝
1962年	ジュニア・インターカレッジ 舵手付フォア 優勝
	三大学エイト 優勝
1963年	ジュニア・オープンレース・エイト 優勝
	全日本ジュニア 舵手付フォア 優勝
1964年	関東女子インカレ 優勝
	三大学エイト 優勝
1967年	全日本選手権 エイト 3位
	五大学エイト 優勝
1968年	五大学エイト 優勝
1969年	五大学エイト 優勝
1970年	五大学エイト 優勝
1971年	全日本ジュニア・ダブルスカル 優勝
	全日本選手権 舵手付フォア 優勝
1977年	全日本大学選手権 ダブルスカル 優勝
1980年	五大学エイト 優勝
1990年	全日本選手権 舵手付フォア 優勝
2000年	全日本軽量級選手権 女子舵手付フォア 優勝
2003年	五大学エイト 優勝
2005年	全日本選手権 女子シングルスカル 優勝
2011年	五大学エイト 優勝

(3)資料群の概要 ()内は資料番号

端艇部の歴史を概観したが、資料群の中には上記の端艇部の変遷を裏付ける資料が見られる。まず、容器「A」にある『東京外語艇友会会報』(A-5-1)、『コンコルディア』(A-3~A-12他)は艇友会の会報で、各々の時代の端艇部の近況を伝える貴重な資料である。艇友会に関する資料としてはその他「ボート関係新聞・書簡」(H-1)に総会等の会議に

関わる資料が散見されるが、『会報』・『コンコルディア』は一部欠損が見られるものの1931年(昭和6)の刊行以来の会報が保管されており、変遷を追う上で最重要の資料と言える。この会報に関連して戦時中の1944年から刊行された『小さなコンコルディア』(A-2)や1976-77年にかけて刊行された『月刊コンコルディア』(A-4-38~A-4-43)など臨時に発刊された会報も揃って保管され、当時の端艇部の様子を克明に伝える。

また、容器「A」「ロッカー5」「コンテナ1」に見られる賞状、トロフィーは端艇部の戦績を遺す資料群である。運動部にとって過去の戦績は部の歴史を示す重要な一角である。加えて、容器「G」の『明治神宮国民体育大会』プログラム(G-31他)など各種競漕大会のプログラムは戦前に端艇部が参加した大会を、容器「B」に見られる『T.F.M Regatta』(B-1~B-6)、『5 UNIVS Regatta』(B-7~B-31)は戦後の三大学・五大学レガッタの概要を伝え、過去の戦績を補足する資料を構成する。他方で、容器「A」の『学内競漕大会』プログラム(A-18~A-20)は、外語祭に並び本学において歴史的な年中行事である「学内ボート大会」の記録を伝える。こうした記録は、現在もボート大会の開催に端艇部の部員が貢献している事実に鑑み、本学における端艇部の位置づけを示す資料となる。

この他、昭和初期から平成期の長期にわたって、ボートに関連する記事がスクラップブック(容器H、I、J、K)にされ、それぞれの時代におけるボート競技への社会的関心を伝える。『昭和初期練習日誌』(B-37)や「コンテナ7」の8mmフィルムは当時の練習の様子を遺し、本学の端艇部だけでなく、ボート競技の歴史を残す意味でも非常に貴重な資料群となっている。

また、資料群全体の概要を検討する上で紹介すべき人物がいる。それは松井文尾氏である。松井氏は1928年(昭和3)に東京外国語学校に入学後、端艇部員となった。1932年に卒業後、満州鉄道に入社し同社端艇部員になり、後に日漕満州支部の役員となった。1939年に帰国後、東京外語端艇部監督・東京外語艇友会委員長の任に付いた。戦中の空白期を経て、1947年からは日本漕艇協会役員として活動し、1952年東京外語端艇部の監督に就任、1960年には女子部を発足させる。1979年端艇部監督に復帰し、1985年からは東京外語艇友会会長、続いて名誉会長を歴任した。この経歴から分かる通り、本学の端艇部はもちろん日本のボート競技の充実に尽力した人物である³。

松井氏は上記の活動に関わる資料を多数保存していた。資料群に含まれる多数の昭和初期の資料は、同氏がかつて所有物として保管し、伝え遺してきた貴重な資料である。特筆すべき資料を幾つか紹介すると、1940年代の写真を収めたアルバムである「昭和17年ボート」(コ4-1-1)、「昭和18年ボート」(コ4-1-3)や「松井(寺井)文尾アルバム1929~1931」(N-8)、「松井(寺井)文尾(昭和7C)アルバム1928年~1929年」(N-9)が挙げられる。これらには当時の貴重な写真がキャプションを付して紹介されている。また、同氏が所属した日漕満州支部の「会員乃志るし」(F-39)や、東京オリンピックの際にボート競技役員として使用した「身分証明書」(コ6-9-2-1)は、資料1点だけで同氏の幅広い活動を示す興味深い資料となっている。

最後に今回は内容照会を行うことが出来なかったが、約8500点を超す写真資料がある。これらの中には、年史編纂に利用された大正期・昭和期の写真が含まれ、各時代の練習風景・集合写真などを伝え遺す資料群であり、早期の内容照会と利用体制の整備が必要である。

³ 東京外語艇友会『外語ボート100年』(東京外語艇友会、2001年) 664-665頁参照。

2. 寄贈の経緯と整理経過

以下、寄贈の経過と資料整理の経過について概観したい。

(1)寄贈の契機

2012年5月第99回学内競漕大会の折、本学の立石博高副学長(当時)は合宿所の資料群を視察し、将来的な保存のためには早急に資料の保存環境の改善が必要であるとの立場から、艇友会山田勝会長に対し発足間もない文書館への寄贈を依頼した。これが今回の資料群寄贈のきっかけとなった。

6月27日、この件を具体的に進めるため、府中キャンパス副学長室において艇友会・文書館の双方の代表により資料群寄贈に向けた打合せが執り行われた。打合せには艇友会側は広谷直路氏(ボート部70周年史、100年史の編集担当者。昭和41年ドイツ語科卒)、館次郎氏(艇友会副会長(当時)。昭和44年スペイン語科卒)、渡邊悦男氏(外語会プラザ常駐委員(当時)。昭和44年卒)の3名、文書館側は立石博高副学長、野本京子副館長、倉方慶明館員の3名が参加し、資料群の一括寄贈を基本方針に、戸田合宿所に保管されている資料群の現状を確認の上、寄贈に向けた具体的な措置を検討することを決定した。

(2)初期調査⁴

7月18日、寄贈に先立ち、戸田合宿所の初期調査(事前調査)を実施した。調査の目的は、①文書館に寄贈する資料群の現状確認と対象の選定、②聞き取り・実地調査を通じた資料群の保管経緯(来歴)・内容等、基本情報の収集を図ることであった。調査は倉方館員が担当し、艇友会の広谷氏、館氏両氏の協力の下、戸田合宿所の保管状況を確認するとともに、資料の来歴について聞き取り調査を実施した。

なお調査に際して、事前に調査の目的、今後の調査計画の概要、初期調査のスケジュール・方法等をまとめた調査計画書を艇友会側に送付し、その調査への協力を求めた。(7月15日に送付、図3はその一部分)

【図3】調査計画書 初期調査の方法(2012年7月15日送付、作成者:倉方慶明)

スケジュール	30分程度	1~2時間程度		2~4時間		30分程度	備考	
作業項目	0. 聞き取り調査	1. 現状記録	2. 箱詰め	3. 概要調査	4. 簡易保存措置	5. 片付け		
目的	保存環境等に関する聞き取り調査	原秩序の詳細な記録化	資料整理・移管作業の円滑化の為に、箱詰めを完了	資料群の概要を記録化		移管までの仮置き場所設置		
作業手順	①聞き取り調査	①「棚/箱番号」の設置	①写真撮影/スケッチ終了分から箱詰め	①「カタマリ」番号の付与	①簡易保存措置	①仮置き場所の設置	※1配置図、概要調査書等の記録については、現場では簡易なもの作成に努め、調査後に本紙を作成する。	
	②周辺環境の撮影	②配置図の作成(※1)	②箱番号の付記	※資料群が崩れないようビニール紐等で仮括り。	※作業3の概要調査と同時並行で実施。	②清掃		
	※聞き取り調査事項は主に以下である。 ・資料の来歴・保存環境・今後の予定	③各棚の資料群に「ブロック番号」を付与	※資料群が崩れないようビニール紐等で仮括り。	②「ブロック」毎の概要記録化(※1)				
		④写真撮影/スケッチ	※作業1の現状記録と同時並行で実施。	③箱に仮収納				

初期調査は、時間的制約のため当初予定していた箱詰めは実施できなかったが、①聞き取り調査、②現状記録、③概要調査の順に進行した。聞き取り調査の内容については先の「来歴」の項で記述したため、ここでは、当日の現状記録の流れを簡単に紹介する。

1)「棚/箱番号」の設定

資料群は戸田合宿所1階の廊下兼物置のスペースに置かれていた(図6・図7参照)。この空間は、現在、現役の端艇部学生たちが備品等を置く空間としても利用されており、そうした備品と資料群の区別が必要であった。そこで資料群の配置場所を明確にし、その後の選別を容易にするため、各棚・箱に「ロッカー1」～「ロッカー6」、「コン

⁴ 初期調査の計画に当たっては、安藤正人「島根県飯南町「旧赤来町役場文書」調査プロジェクトについて」『GCAS Report Vol.1(学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報第1号)』(学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻、2012年)を参照した。

テナ1」～「テナ7」、「額1」、「雑品1」、「雑品2」、「備品」の番号を設定し、それぞれ付記した。

【図4】調査報告書（2012年7月18日作成、作成者:倉方慶明）

	作業項目	概要	備考(留意点等)
聞き取り調査	①聞き取り調査	艇友会の広谷様、館様に資料の来歴、現在の保存環境等について聞き取り調査を実施(詳細は後日、音声記録を基に文書化を予定。)	『外語ポート100年』の残部を確認。
	②周辺環境の撮影	合宿所・艇庫及び合宿所内の資料保管場所(1階)を撮影。	水辺に面した建物であり、資料保護の観点から早急に移管措置を採る必要がある。
現状記録	①「棚/箱番号」の設置	「棚番号」として「ロッカー1」～「ロッカー6」、「テナ1」～「テナ7」、「額1」、「雑品1」、「雑品2」、「備品」を設定し、番号を付記。	資料群の現物を確認したところ、ロッカーやテナに保管されており、移管に当たっては、各ロッカーの棚毎に段ボールに詰め、移管する予定。
	②配置図の作成(別紙1参照)	配置図のうち、文書館への移管対象として「ロッカー1・2」、「テナ1～7」、「額1」の各資料群を文書館への移管対象として確認。「ロッカー5・6」のトロフィー等については移管の検討対象とすることが決定(決定後、連絡予定)。	一部資料に、酸化による劣化が見られた。早急に措置が必要である。
	③各棚の資料群に「ブロック番号」を付与	移管対象となったロッカー、テナのみ「ブロック番号」を付記。	
	④写真撮影/スケッチ	保存部屋全体、各ロッカー、ブロック毎に写真撮影をし現状を記録。	写真撮影によりスケッチを代用。
概要調査	⑤「棚/箱番号」毎の概要記録化(別紙2参照)	「ロッカー1」、「ロッカー2」、「テナ」、「額」の各「棚/箱番号」毎の概要調査を実施。	各棚の資料群が比較的多くまとまっており、「ブロック」毎の概要の記録化は実施していない。

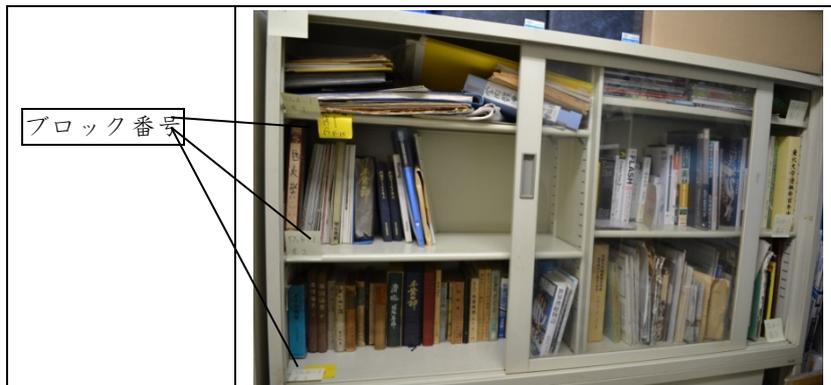
2)配置図の作成

次に資料群の配置場所を図示した配置図を作成し、設定した「棚/箱番号」を配置図に組み込んだ。この配置図を基に艇友会の広谷氏、館氏との相談の上、寄贈対象とする資料群の選定に当たった。この時点で、寄贈対象とした資料群は「ロッカー1・2」、「テナ1～7」、「額1」の各資料群である。トロフィー等が保管されていた「ロッカー5・6」については、今後継続的受入を実施した場合の保管場所の確保を考慮し、この時点では保留とした。(後日、「ロッカー5・6」についても寄贈が決定した。)

3)各棚の資料群に「ブロック番号」を付与

【図5】 ブロック番号

移管対象として選定したロッカー・テナの各棚に「ブロック番号」を付記した。このブロック番号は今後の資料整理の際、資料群の基本的まとまりを示す単位として活用することを想定し、調査時点での資料群の現況を「概要調査用紙」(図8)に記録した。

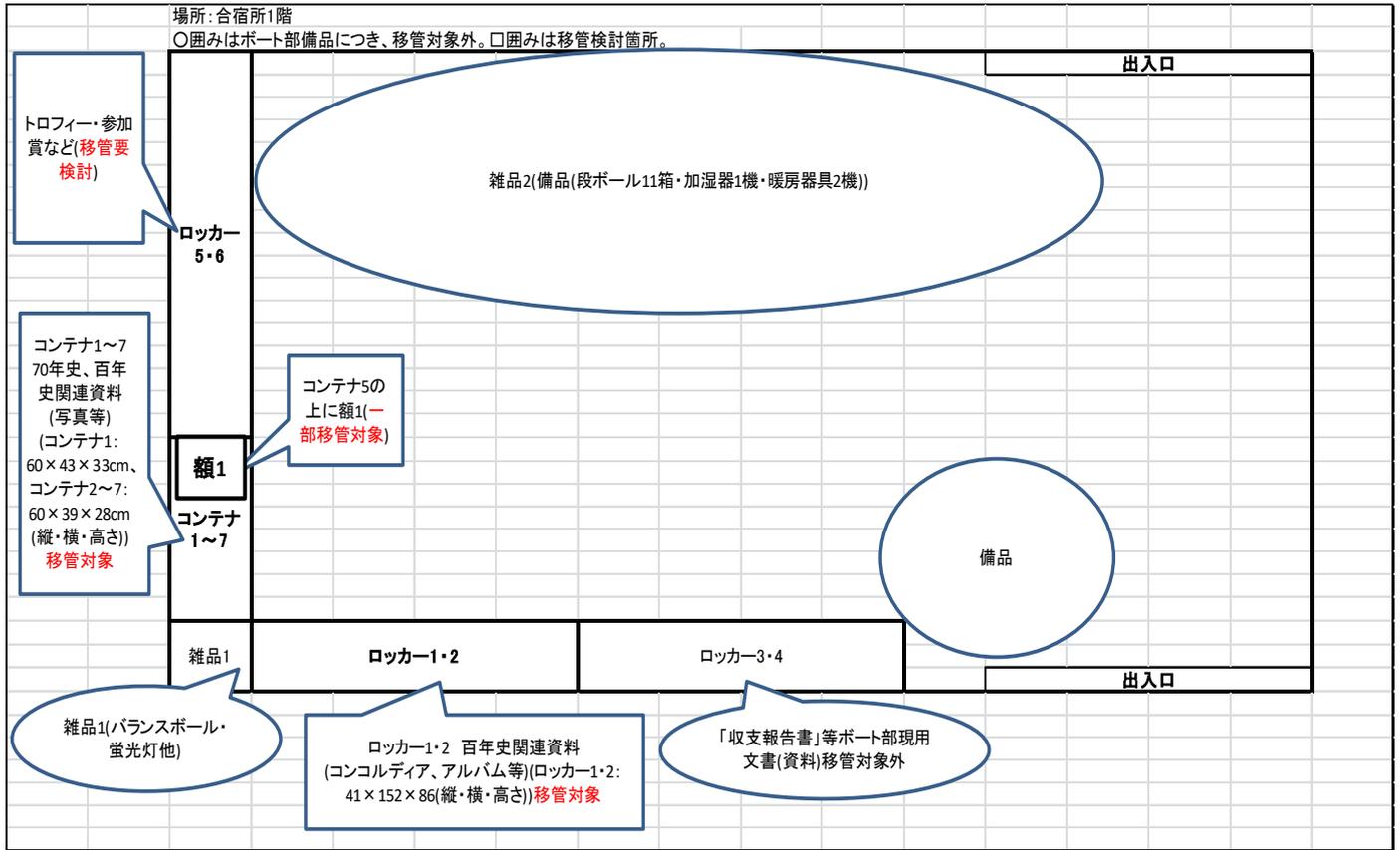


4)写真撮影/スケッチ

また概要調査を補足するために、保存環境全体、ロッカー、ブロック毎に写真を撮影し、現状を記録した。本来はスケッチも併せて採録すべきであったが、今回は人的・時間的制約から写真撮影によりスケッチの代用とした。

以上の初期調査の詳細は、図8の「概要調査用紙」を参照されたい。調査の結果、資料群には昭和前期の写真群、記事切り抜きをはじめ、年史編纂の際に収集された貴重な資料群が含まれていることが分かった。また、同時に一部資料群にはカビ等による著しい劣化が散見され、保存措置を講じるためにも早期の文書館への移管が望ましいことを確認した。そのため、艇友会の広谷氏、館氏との協議の上、7月中の文書館への移管措置を決定した。

【図6】配置図-見取り図



【図7】配置図-写真



【図8】 概要調査用紙

東京外国語大学艇友会(戸田合宿所)所蔵資料概要調査 記録用紙(様式2)							No.1
場所	ロッカー1		番号	ロッカー1左1~右3		記録撮影	■済み 2012年7月18日
保存容器/保存状況等	文書の概要						
	ブロック番号	枝番	名称(概要)	作成者	年代	形態・概数	備考
ロッカー1の上には、段ボール1箱(部備品等)、トロフィー箱3箱、クーラーボックス1台あり。これらは部の備品につき移管対象としない。	左	1	コンコルディア関連資料ファイル			10冊	
			賞状ファイル			1冊	
			学内競漕大会プログラム			2冊	
	左	2	書籍(七十年史関連)			5冊	
			五大学レガッタプログラム			約30冊	
			四大学レガッタプログラム			1冊	
	左	3	書籍(ボート部年史関連)			34冊	
			広谷氏より書籍(ボート部年史関連)3冊移管。			3冊	
	右	1	書籍(デザイン関連)			23冊	ロッカー右1:年史等の編纂に利用したデザイン書籍のため、移管対象とせず。
	右	2	他大学ボート部年史			12冊	
	右	3	書籍(デザイン関連)				
			海外漕艇関連書籍・雑誌・各種プログラム・雑資			約120冊	
			以上				
	左3						
	右3						
	右2						
2012年7月用紙作成(東京外国語大学文書館)			記入日	2012年7月18日	記入者	倉方慶明	

東京外国語大学艇友会(戸田合宿所)所蔵資料概要調査 記録用紙(様式2)							No.2
場所	ロッカー2		番号	ロッカー2左1~右2		記録撮影	■済み 2012年7月18日
保存容器/保存状況等	文書の概要						
	ブロック番号	枝番	名称(概要)	作成者	年代	形態・概数	備考
ロッカー2はロッカー1の下に配置。資料群の多くは新聞スクラップ・アルバム等年史編纂の際に収集された一次資料であり、酸化が進行している資料であることから、文書館へ移管後、保存の簡易措置の必要がある。	左	1	新聞スクラップ(戦前~戦後)			28冊	
	左	2	封筒(酸化した写真群)			1通	酸化が著しい資料
			新聞スクラップ			19冊	
			アルバム			1冊	
			漕艇協会資料(松井さん資料か?)			1冊	
	右	1	アルバム			15冊	右1:年史編纂の際に卒業生より収集したアルバム。所有者の確認が必要な資料のため、2冊は移管保留。なおアルバム内の写真のデジタルデータは広谷氏が所有。
	右	2	ファイル(百年史編纂の際に収集した資料群)			8冊	
			以上				
	左2						
	右						
	右1						
	右2						
2012年7月用紙作成(東京外国語大学文書館)			記入日	2012年7月18日	記入者	倉方慶明	

東京外国語大学艇友会(戸田合宿所)所蔵資料概要調査 記録用紙(様式2) No.3

場所	コンテナ		番号	コンテナ1~7			記録撮影	■済み 2012年7月18日
保存容器/保存状況等	文書の概要							
	ブロック番号	枝番	名称(概要)		作成者	年代	形態・概数	備考
コンテナ1~7には70年史、百年史関連資料(写真等)が保存されている。コンテナの大きさはそれぞれ以下の通りである。コンテナ1:60×43×33cm、コンテナ2~7:60×39×28cm(縦・横・高さ)。移管の対象とする。移管の際はコンテナのまま移管頂く予定。 対象外 コンテナ1 コンテナ2 コンテナ5 コンテナ3 コンテナ6 コンテナ7 コンテナ4	1		賞状類(100枚以上)				100枚以上	
	2		封筒(写真)				20束	
	3		紙袋				2袋	
	4		アルバム				2冊	
	5		多数の写真群、アルバム(小)。70年史編集・コンコルディア編集に利用した写真群。70年史編集の際の葉書等。					
	6		封筒、布袋(封筒3束に移し替え2012.07.16)、ビニール袋(汚損写真)、紙袋(ネガ)				9束	コンテナ6:100年史資料写真
	7		8mmフィルム、撮影機材等				約30リール	コンテナ7:8mmフィルムの劣化が著しく、酢の匂いがする等、緊急に保存措置をとる必要がある。
2012年7月用紙作成(東京外国語大学文書館) 記入日 2012年7月18日 記入者 倉方慶明								

東京外国語大学艇友会(戸田合宿所)所蔵資料概要調査 記録用紙(様式2) No.4

場所	額		番号	額1			記録撮影	■済み 2012年7月18日
保存容器/保存状況等	文書の概要							
	ブロック番号	枝番	名称(概要)		作成者	年代	形態・概数	備考
コンテナ5の上に、額縁群が配置。額縁のみのものがあるが、貴重な写真群も見受けられる。移管の対象。 しゃもじ 額1 コンテナ1~7 しゃもじ	額1		額(写真含む)				10個	
			しゃもじ					
2012年7月用紙作成(東京外国語大学文書館) 記入日 2012年7月18日 記入者 倉方慶明								

(3)資料群の移管作業・整理作業

1)移管作業

7月31日、資料群を戸田合宿所から文書館へ移管した。移管に際しては、資料群の原秩序を記録するため、ロッカー・コンテナ等にどのように保管されていたかを撮影し、現況記録を採録した。移管作業は、戸田合宿所における①現況記録の採録、②ダンボールへの箱詰めを、館氏(艇友会)、倉方館員(文書館)が実施し、文書館(府中キャンパス)への運搬作業は倉方館員が担当した。資料群については原則的に原秩序を維持したまま箱詰めしたが、運搬中に原秩序が崩れることを想定し、ダンボールへの移し替え後も撮影をした。(この現況記録については、次項「現況記録」参照。)

この時、移管した資料群は総計ダンボール20箱、コンテナ7ケースであった。概要は図6の通りである。

【図6】移管資料群

保管場所		資料概要	容器番号	箱数
ロッカー1	左	1段目 『コンコルディア』(昭和6年～平成22年)、昭和六年東京外語艇友会会報、写真(大正・昭和初期)、賞状、学内競漕大会プログラム	A	1
		2段目 四大学・五大学(大学対抗)レガッタプログラム、『外語ボート史70年史』、昭和初期練習日誌	B	1
		3段目 ボート関連書籍	C、D	2
	右	2段目 他大学ボート部年史	E	1
		3段目 他大学ボート部年史、オリンピック関連資料、海外ボート雑誌、ボート関連新聞記事、ボート関連書籍(大正・昭和初期)、『漕艇』(昭和初期)、国民体育大会関連資料(昭和15・16年)、各種競漕大会プログラム(昭和10年代)	F、G	2
ロッカー2	左	1段目 ボート部関連新聞記事・書簡(昭和11～31年)、ボート部関連新聞記事(昭和38～59年)	H、I	2
		2段目 ボート部関連新聞記事(昭和53～63年)、ボート部関連新聞記事(昭和63～平成3年)、新聞記事・写真(昭和10年代)	J、K	2
	右	1段目 ボート部関連写真(1990年代)	L	1
		2段目 『外語ボート100年』未使用写真、『外語ボート100年』編纂用アンケート原本	M	1
ロッカー5	トロフィー、メダル、楯(昭和44～平成23年)	ロッカー5(1～6)	6	
額・その他	額(写真)、オール	その他	1	
コンテナ1	賞状(昭和42～平成22年)	コンテナ1	1	
コンテナ2	(ボート部関連)写真	コンテナ2	1	
コンテナ3	ボート部関連写真(1980～2000年代)	コンテナ3	1	
コンテナ4	松井文尾氏アルバム昭和17・18年	コンテナ4	1	
コンテナ5	ボート部関連写真、記念塔祭関連写真(松井氏整理)、外語祭関連写真	コンテナ5	1	
コンテナ6	汚染写真(年代不詳)、外語ボート部100年史編纂用写真	コンテナ6	1	
コンテナ7	ボート大会8ミリフィルム(昭和32～55年)、機材	コンテナ7	1	

2)資料整理

移管後の資料群の整理・目録作業は二段階に分けて実施した。8月～9月にかけて実施した第一段階では概要目録の作成を目指し、資料群の表題・年代・形態などの概要のみを採録し、資料群の全体像の把握に努めた。同時に、一部資料にみられたカビ等を除去し資料群に簡易保存措置を施した。

11月より、資料整理アルバイトを雇用の上、本格的な資料目録の作成に入った。目録作成に当たっては、移管の際に梱包したダンボールなどの保存容器を資料の基本単位として扱った。そのため、元々の保存場所との照合は先の図6を参照されたい。

また、概要目録作成の過程で、近年の艇友会会報『コンコルディア』に一部欠号が散見された。これらの欠号については艇友会に追加収集を依頼し、10-11月にかけ、資料「A-19」を追加資料として収集した。加えて、1月30日には「ダンボールN」とデジタル化した写真データの追加寄贈も受けた。

目録のデータ入力作業は1月下旬をもって終了し、2月～3月にかけて目録の確認作業を行い、図1の通り3000点を超す目録作成を終了した。

なお、この資料群のうち現在確認した約8500点を超す写真資料については、その内容の判別に時間を要することから、今回の目録では写真の枚数のみ記載し、内容の紹介については今後調査作業を実施することとした。今後の資料整理の経過を待たれたい。

II. 資料単位・組織現状記録

ロッカー1-左1 ダンボールA			
資料 番号	A1~18 ※A-19は後日追加寄贈	状態	A2~4(酸化)
移管前		移管時 の梱包 写真	
概要	『コンコルディア』(昭和6年~平成22年)(A1~8)、昭和六年東京外語艇友会会報(A5-1)、賞状(A13)、学内競漕大会プログラム(A16~18)		
備考			
ロッカー1-左2 ダンボールB			
資料 番号	B1~40	状態	B20~21(カビ)、39(酸化)
移管前	 練習日誌(昭和初期)(B37)	移管時 の梱包 写真	 (左からB1)
概要	四大学・五大学(大学対抗)レガッタプログラム(B1~31)、『外語ボート史70年史』(B33~35)、昭和初期練習日誌(B37)		
備考			
ロッカー1-左3-1 ダンボールC			
資料 番号	C1~18	状態	
移管前	 ボート関連書籍(C1~18)	移管時 の梱包 写真	
概要	ボート関連書籍(C1~18)		
備考	広谷氏寄贈資料追加前(三段目奥):追加後の写真は次頁		

ロッカー1-左3-2 ダンボールD			
資料 番号	D1~20	状態	
移管前	 <p>ボート関連書籍 (D1~19) (左から D1~)</p>	移管 時の 梱包 写真	 <p>ボート関連書籍 (D1~19)</p>
概要	ボート関連書籍 (D1~19)		
備考	移管前の写真は広谷氏寄贈資料追加後の写真		
ロッカー1-右2 ダンボールE			
資料 番号	E1~18	状態	
移管前	 <p>移管対象外 他大学ボート部年史 (E1~18)</p>	移管 時の 梱包 写真	 <p>(左から E1~18)</p>
概要			
備考			
ロッカー1-右3 ダンボールF・G			
資料 番号	F1~74、G1~65	状態	酸化・カビ・汚れ (F1~72) 酸化・カビ・破損 (G1~65)
移管前	 <p>ダンボールFへ移管 ダンボールGへ移管 (左から F1~) (左から G1~)</p>	移管 時の 梱包 写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>F(移管時)</p>  <p>海外ボート雑誌</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>G(移管時)</p>  </div> </div>
概要	<p>【ダンボール F】 他大学ボート部年史 (F1~2)、オリンピック関連資料 (F4・6・19・21・43・49・54・58~59・65~66 他)、海外ボート雑誌 (F7~12 他)、ボート関連新聞記事 (F48 他)</p> <p>【ダンボール G】 ボート関連書籍 (大正・昭和初期)、『漕艇』(昭和初期) (G38 他)、国民体育大会関連資料 (昭和15・16年)・各種競漕大会プログラム (昭和10年代) (G-30)</p>		
備考			

ロッカー2-左1 ダンボールH				
資料 番号	H1~14	状態	酸化・破損 (H1~14)	
移管 前	 ダンボールHに移管 (左からH1~H14)	移管 時の 梱包 写真	 ボート部関連新聞記事・書簡 (左からH1~H14)	
概要	ボート部関連新聞記事・書簡 (昭和11~31年)			
備考				
ロッカー2-左1 ダンボールI				
資料 番号	I1~15	状態	酸化 (I1~15)	
移管 前	 ダンボールIに移管 (左からI1~15)	移管 時の 梱包 写真	 ボート部関連新聞記事 (昭和38~59年) (左からI1~15)	
概要	ボート部関連新聞記事 (昭和38~59年)			
備考				
ロッカー2-左2 ダンボールJ・K				
資料 番号	J1~15、K1~7	状態	酸化	
移管 前	 ダンボールJへ移管 ダンボールKへ移管	移管 時の 梱包 写真	 ボート部関連新聞記事 (左からJ1~15)	 ボート部関連新聞記事 (昭和63~平成3年)
概要	【ダンボールJ】ボート部関連新聞記事 (昭和53~63年) 【ダンボールK】ボート部関連新聞記事 (昭和63~平成3年)、新聞記事・写真 (昭和10年代)			
備考				

ロッカー-2-右1 ダンボールL			
資料 番号	L1~12	状態	ボート部関連写真（上からL1~12）
移管 前	 ボート部関連写真（右からL	移管 時の 梱包 写真	
概要	ボート部関連写真（1990年代）（L1~12）		
備考			
ロッカー-2-右2 ダンボールM			
資料 番号	M1~8	状態	酸化（M1）
移管 前		移管 時の 梱包 写真	
概要	『外語ボート100年』未使用写真（M1~6）、『外語ボート100年』編纂用アンケート原本（M5）		
備考			
ロッカー-5			
資料 番号	1~39	状態	
上段	 トロフィー メダル（14~15） （1~6、16~24他）	下段	 楯（昭和44~平成23年） （30~34）
概要	トロフィー（1~6、16~24他）、メダル（14~15）、楯（昭和44~平成23年）（30~34）		
備考			

コンテナ 1		コンテナ 2	
資料 番号	コ 1-1～85	資料 番号	コ 2-1～21
	<p>賞状 (上から 1～27)</p>		<p>から 1～18</p>
概要	賞状 (昭和 42～平成 22 年) (1～27)	概要	(ボート部関連) 写真
備考		備考	
コンテナ 3		コンテナ 4	
資料 番号	コ 3-1～27	資料 番号	コ 4-1-0～1-3
	<p>ボート部関連写真 (1990 年代) (コ 3-1)</p>		
概要	ボート部関連写真 (1980～2000 年代)	概要	松井文尾氏アルバム 昭和 17・18 年 (0～2)
備考	カビ・劣化 (3)	備考	松井文尾氏関連資料
コンテナ 5		コンテナ 6	
資料 番号	コ 5-1～52	資料 番号	コ-61～11
			<p>汚染写真 (年代不詳) (1)</p>
概要	ボート部関連写真、記念塔祭関連写真 (松井氏整理)、外語祭関連写真	概要	外語ボート部 100 年史編纂用写真 (8) 汚染写真 (年代不詳) (1)、領収書 (6)、外語ボート部 100 年史編纂用写真 (8)
備考	カビ (2、3、9)	備考	破損 (3)、カビ (4)、劣化 (7)

コンテナ7		その他	
資料 番号	1～19	資料 番号	1～3
	 <p>機材 (コ7-1)</p>		 <p>額(他1～2)</p>
概要	ボート大会8ミリフィルム(昭和32～55年)、 機材(コ7-1)	概要	昭和三十四年 全日本選手権レガッタ 祝優勝(しゃ もじ)(他1)
備考	劣化	備考	

追加資料：ダンボールN 2013年1月30日追加寄贈された資料群

ダンボールN			
資料番号	N1～9	状態	
移管時の 写真	 <p>菅野一男(昭26M29C)フォトス① (N-1) MOディスク (N-2)</p>		
概要	ボート部関連写真(昭和26～29年)(菅野一男氏関 連)		
備考			